

Gateball text 2019

ENJOY & SMILE GATEBALL



ゲートボールテキスト2019 目次



スポーツを愛するすべての人へ（JSP0会長メッセージ）	2
フェアプレイについて	4
アンチ・ドーピングについて	6
リスクマネジメントについて	8
公式競技規則 & 審判実施要領2019について	10
審判技能の向上（データから見る第34回全日本選手権大会）	12
審判員制服のご案内	14
記録表の記入方法（例）	16

※ 解析協力（審判技能の向上）



1

スポーツを愛するすべての人へ

スポーツの意義と価値を高めるとともに、スポーツがあらゆる人々に一切の差別、格差なく享受され、誰もが望む社会を実現するために取り組むべきこと。

日本スポーツ協会（2018年4月に日本体育協会から名称変更：JSPO）では、昨今のスポーツ界において発生した事案（ドーピング、加盟スポーツ団体のガバナンス低下、スポーツ指導者による不適切な指導など）により、文化としてのスポーツの価値が脅かされていることを受け、2018年7月、スポーツを愛するすべての人々へメッセージを発信しました。

スポーツを愛するすべての人が「場」を形成する当事者として役割を分担しながら、最適なスポーツの「場」を創っていくために行動しましょう。

プレイヤーの皆さんへ【スポーツを心から楽しむ】

「楽しい」「大好き」という気持ちが、スポーツを続ける原動力であり、一人ひとりが主役として、みんなが楽しむことができるスポーツの「場」をつくりましょう。

【互いに尊重し合う】

プレイヤー、仲間、スポーツ指導者、アントラージュは、役割は違いますが、一人の人間としては対等で、尊重されるべき人格があります。

相手を受け容れ、互いに尊敬や感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

【自ら問いを立てる】

常に自分の思考や行動について問いを立て、答えを求め、考える習慣を身に付けましょう。

スポーツ指導者の皆さんへ【プレイヤーズセンタード（注1）】

スポーツの主役はプレイヤーです。スポーツ指導者自身の考えを一方向的にプレイヤーに伝えるのではなく、気づきを促し、成長に導いていくコーチングを目指しましょう。

【学び続ける】

プレイヤーに気づきを促し成長に導くため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得をはじめ、常にコーチングに関する最新の情報を手に入れ、学び続けましょう。

【ワークライフバランス】

スポーツ指導者自身の生活の充実・幸福の追求と併せ、家族・関係者のライフプランの充実も念頭に置きましょう。

【注1】プレイヤーを取り巻くアントラージュ自身も、それぞれのWell-being（良好・幸福な状態）を目指しながら、プレイヤーを中心（センター）として位置付け、そのサポートをしていくという考え方。

アントラージュ（注2）の皆さんへ

【良き理解者となる】

プレーヤーが望むスポーツ活動を理解し、その成長を見守り促すために、良き理解となるよう心がけましょう。

プレーヤーは、スポーツを自ら楽しみ、目標達成を目指す過程の中で、フェアプレーや倫理観、他者を信頼すること、他者に貢献することなどを身に付けることができ「人」としても成長します。

このような視点をもちつつ、互いに協力しあってプレーヤーの成長をサポートしましょう。

【注2】フランス語で「取り巻き、環境」という意味であり、競技環境を整備し、アスリートがパフォーマンスを最大限発揮できるように連携協力する関係者（保護者、アスレティックトレーナー、スポーツドクター、マネージャー、審判員、メディア等のプレーヤーと関わりを持つすべての人々）と定義している。

スポーツ団体・組織の皆さんへ

【スポーツを愛する人を増やす】

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」といった多様な楽しみ方があります。一人でも多くの方がスポーツを生活の中に置いて、生涯を通じて、長く楽しめるような環境を整えていきましょう。

【反倫理的行為を根絶する】

日本スポーツ協会は、スポーツの「場」で、暴力行為、暴言、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、ドーピングなどの反倫理的行為の発生や、それらの行為が黙認されることにより、スポーツを敬遠する人が増えるなど、スポーツの価値が低下することを懸念しています。

このことを私たちは再認識し、スポーツの「場」から反倫理的行為を根絶し、団体・組織の経営・運営が、公明正大なものとなるよう共に不断の努力を続けていきましょう。

参考：メッセージを補足する参考資料（下段ホームページにてご確認ください）

- スポーツ宣言日本
- フェアプレイで日本を元気に
- 新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて～グッドコーチに向けた「7つの提言」
- スポーツ界における暴力行為等根絶宣言
- スポーツ指導者のための倫理ガイドライン
- 子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）
- アスリートのアントラージュが大切にしたいこと
- トラブルのないスポーツ団体運営のために・ガバナンスガイドブック

公益財団法人日本スポーツ協会ホームページより抜粋
<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=3791>

2

フェアプレイとはスポーツの真ん中にあるもの

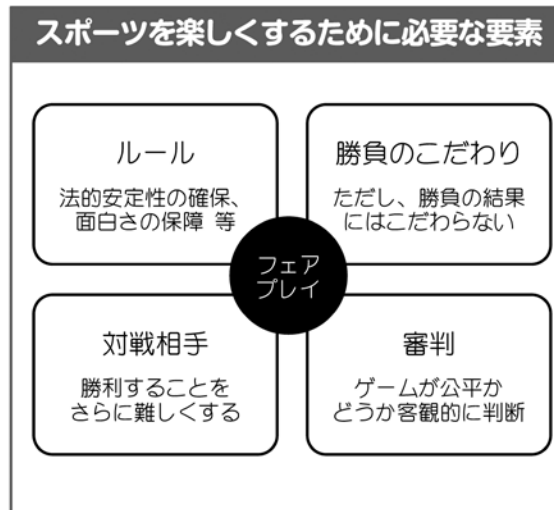
スポーツには様々な力がありますが、その中心にあるのが「フェアプレイ」であり、フェアプレイには、大きく2つの意味があると考えます。

①「行動としてのフェアプレイ」

スポーツは定められたルールのもと、対戦相手（または記録）と競い合い勝利を目指します。その時に、ルールを守る、審判や対戦相手を尊重する、全力を尽くして戦い、勝ってもおごらず、負けてもふてくされたりしないなど、実際の行動としてのフェアなプレイです。

②「フェアプレイ精神」

まさにフェアな心（魂）のことを意味します。これはスポーツの場面に限らず日常生活の中でも、自分の考えや行動について善いことが悪いことを自分の意思で決められること。自分自身の心に問いかけた時、恥ずかしくない判断ができる心のことをいいます。



参考：日本スポーツ協会「スポーツ憲章（抜粋）」

<スポーツ精神の解説>

「スポーツ精神」とは、自らスポーツを行うことに意義と価値をもち、スポーツの競技規則、スポーツマンシップやフェアプレイに代表されるマナー、エチケットなどのスポーツ規範に基づき、生涯を通じて自己の能力・適性等に応じて、主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことを意味するものとする。

<スポーツを行う者の心得（第2条）>

- スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
- 競技規則はもとより、自らの属する団体の規則を遵守し、フェアプレイの精神を尊重する。
- 常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
- アンチ・ドーピングに関する規程を遵守する。



スポーツを通じて育まれるフェアプレイは、社会を元気にする人づくり、地域づくり、国づくりに貢献できるはずで、社会に認められるスポーツの価値を守り高めるため、はじめの一步を私たちから。

3

様々な形で広げていく「フェアプレイ」の活動

日本スポーツ協会では、「フェアプレイで日本を元気に」を合言葉に、スポーツで日本社会を元気にしていこうというキャンペーンを展開しています。

あくしゅ、あいさつ、ありがとう

誰もができて、誰もが気持ち良くなる行動が「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」。スポーツをしている時も、スポーツをしていない時でも、フェアプレイの活動を目に見えるものとして、広げていきましょう。

あくしゅをしよう。

ゲームを始める時、ゲームができることへの感謝の気持ちを込めて、対戦相手と審判と握手をしよう。

ゲームが終わった時、互いの健闘を称えあい対戦相手と握手をしよう。

ゲームを進めてくれた審判に、再び感謝の気持ちを込めて握手をしよう。

あいさつをしよう。

練習が始まる時、仲間たちとあいさつをしよう。

きっと信頼はどんどん深まるはず。

練習場所で会う人や、町の人たちにもあいさつをしよう。

その一言がスポーツの輪を広げることになるはず。

ありがとうと言おう。

家族やコーチに、ありがとうと言おう。

審判や応援してくれる人たちに、ありがとうと言おう。

ゲームの準備をしてくれた人たちに、ありがとうと言おう。

もっともっと、キミたちを支えてくれるようになるから。

フェアプレイ7カ条

フェアプレイの意味を凝縮した7カ条は、スポーツにおいてだけでなく、ふだんの生活でも自らの行動の指針となるものです。様々な機会に浸透させていきましょう。

1. 約束を守ろう
2. 感謝しよう
3. 全力をつくそう
4. 挑戦しよう
5. 仲間を信じよう
6. 思いやりを持とう
7. たのしもう



スポーツに携わる私たちが率先して、ゲートボール活動中だけでなく日常生活においても相手の尊重やフェアな振る舞いなど、清々しく気持ちのよいフェアプレイを実践し、日本を元気にしていきましょう。

キャンペーン専用サイトでは、マンガで見るフェアプレイやキャンペーン映像など、様々なコンテンツが用意されています。ぜひ、ご覧ください。

公益財団法人日本スポーツ協会
キャンペーン 趣意書より抜粋
<http://www.japan-sports.or.jp/fair/>

4

全世界・全スポーツの共通のルール

スポーツの価値を守り、試合の公平さやアスリートの健康を保護するためにスポーツ界からドーピングを撲滅することが、アンチ・ドーピングの理念です。

「アンチ・ドーピングに関する最新状況」

海外での国ぐるみによるドーピング疑惑だけでなく、クリーンと言われていた日本でも、五輪ライバル選手の飲み物への禁止薬物の混入という前代未聞のドーピング違反が発生するなど、ドーピング問題は後を絶たない状態が続いている。

こうした組織化や巧妙化による複雑化が進み、また科学の発展により、ドーピング検査だけでは限界に達する状態であるため、「検査による摘発（医学領域の追求）」する時代から、「教育・啓発や通報等の捜査体制の強化（法務領域やインテリジェンス・捜査領域の拡大）」する時代へと転換し、事前防止的な取組みの強化が進められていくこととなった。

ドーピングに関する法律とは？

2018年10月、日本では初となる「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律（平成三十年法律第五十八号）」が施行され、各関係者の責務等が明示される。

「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律」の概要

■ 基本理念

- ① スポーツにおける公平性・スポーツを行う者の心身の健康の保持増進の確保
- ② ドーピングの検査における公平性・透明性の確保
- ③ スポーツ競技会運営団体の自主性・自律性の確保
- ④ スポーツの多様性への配慮

■ 責務等（抜粋）

（スポーツ競技会運営団体の努力）

第7条 スポーツ競技会運営団体は、基本理念にのっとり、ドーピング防止活動に主体的かつ積極的に取り組むよう努めるものとする。

■ 基本施策

- ① ドーピング検査専門人材等の育成・確保
- ② 研究機関が行う研究開発の促進
- ③ 国民に対する教育および啓発の促進
- ④ 医師、歯科医師、薬剤師等の医療従事者に対する情報提供、研修機会の確保
- ⑤ 行政機関、JSC（日本スポーツ振興センター）、JADA、WADAの間の情報共有
- ⑥ 文部科学大臣から関係行政機関の長に対する協力の要請
- ⑦ 国際協力の推進、JSC、JADAとWADAとの連携

使用可能な薬リスト2019年版（一部）

日本スポーツ協会のホームページでは、使用可能な薬のリストを公開していますので、必ずご確認ください。ここでは、その一例を掲載します。

※ リストは、世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の禁止表国際基準（1月1日発行）に伴い、毎年改定されますので、ご注意ください。

※ 下記の市販薬は名前全体が「完全一致」することを確認してください。

【鎮痛・解熱等】処方薬：

- ・アスピリン
- ・イミグラン
- ・カロナール ほか

【鎮痛・解熱等】市販薬：

- ・バファリンA
 - ・フェリア
 - ・ロキソニン
- （S、Sプラス、Sプレミアム）

【高血圧】処方薬：

- ・アジルバ錠（アジルサルタン）
 - ・アダラート（ニフェジピン）
 - ・アムロジン
 - ・オルメテックOD錠
 - ・ブロプレス錠
 - ・ニューロタン錠
 - ・ノルバスク
- ※ 利尿薬との配合薬は禁止

アンチ・ドーピングや薬に関する最新の正しい情報を把握する

うっかり飲んだ風邪薬や花粉症の薬だけでなく、病院で処方される薬、漢方薬、サプリメントにも禁止物質が含まれているものがあります。さらに、塗り薬や貼り薬、目薬にもあります。大切なことは、アスリート自身が、常に最新の情報収集に努め、専門家へ相談をしながら、正しいルールを理解し、守ることです。以下の専用サイトを、ぜひご利用ください。



日本アンチ・ドーピング機構（JADA）のホームページでは、アンチ・ドーピングの基本をはじめ、最新の禁止表国際基準（毎年更新）、検査手順の動画など、すべての最新情報を確認することができます。



「スポーツファーマシスト」とは、最新のアンチ・ドーピングに関する知識・情報を持つ、JADA公認の薬剤師のことです。各都道府県のスポーツファーマシストを検索することができます。

<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>



「Global DRO」では、薬の成分に禁止物質が含まれているかどうかを検索することができます。

<http://www.globaldro.com/JP/search>

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構ホームページより抜粋
<http://www.playtruejapan.org/>

5

審判員としてのリスクマネジメント

公正で円滑な審判実務は、競技を成立させるだけでなく、無用なトラブルを防ぎ、安全な環境づくりへとつながっています。

少なからずとも体に負担（筋力や心肺等）をかけることが前提であるスポーツにおいては、スポーツ活動中のリスク（ケガや事故等）の責任は、「原則、自己責任」と考えられることが一般的です。ただし、明らかにリスクの発生が予見できたり（予見可能性）、明らかに回避できたはずなのに（回避可能性）リスクが発生してしまった場合、さらにはケガや事故への対応が適切でなかった場合などは、その状況を作ったとして、イベントの主催者や担当審判員が責任を問われる可能性は十分考えられます。

リスクを未然に防ぐためにも、また、いつどのようなリスクが発生しても、すみやかに対処できるよう、日頃から予防・対応・検証のサイクルに取り組んでいかなければなりません。

リスクマネジメントのサイクル

- 予防：ガイドラインの策定と共有、連絡系統の確立、危険箇所の把握、救急箱の準備等
- 対応：かすり傷や骨折などの一般的なケガへの対処法、AEDの使用方法の習得等
- 検証：ケガや事故等の記録、関係者との事後報告会議、今後の対策への活用等

審判員が行うべき主な「安全配慮義務」は次のとおりですが、これらは、競技者だけでなく、自分たち審判員自身にも該当するものであり、一人ひとりが注意する必要があります。

体調管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 明らかに体調が悪そうに見える場合、またプレー中、何らかの原因により途中から具合が悪くなった場合などでは、本人やチームからの申し出がなくても、プレーを辞めさせ休憩を促すことも必要です。競技開始前から終了後のセレモニーを通して、常に競技者の顔色や行動などに注意を払う必要があります。
会場管理	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲートボールでは、設営物や施設によるケガ等が多く発生しています。競技開始前の用具点検だけでなく、試合ごとに、コートを設置状況を確認・修正する必要があります。また、会場でケガが起きやすいと思われる階段や段差には、注意紙を貼るなどの対応も考えましょう。
天災等	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋外であれば、雨や雪、急な雷や突風などに十分注意し、プレーを続けることが危険と判断した場合には、直ちに競技を一時中断（または中止）し、必要に応じて、競技者の避難等の対応が必要となります。 ● 炎天下や（熱がこもりやすい）屋内での競技においては、適宜、水分補給や休憩を行うなど、熱中症対策への配慮が必要です。

参加者が楽しく、安全に競技を行うためには、まず、競技規則を遵守させることによる対等な条件と秩序の確保が重要な基本と言えます。そして、公正で円滑な審判実務により、競技を正しく成立させ、参加者すべてに対し、安全で安心な環境を提供することが審判員の義務であり、リスクマネジメントの始まりとなります。

6

ゲートボール活動中のケガ等を未然に防ぐには

いつ、どのようなケガや事故が発生しているのか。競技者も審判員も、お互いに声をかけ合い、ゲートボールによるケガ「0（ゼロ）」を目指しましょう。

日本ゲートボール連合では、誰もが安全にゲートボールを楽しむことができるよう、事故防止登録者を対象に大会等での事故や傷病の事例を収集し、ゲートボール活動中の事故防止や予防に取り組んでいます。2018年度に報告のあった事例は以下のとおりです。

主な事故状況等（審判での活動を含む）	2017	2018	
	件数	件数	割合
① コートのライン、ゲート、ゴールポールでつまづく等	20	16	25%
② スティックやボールが身体に当たる等（スパーク打撃、アウトボール）	1	1	2%
③ 競技中のその他のケガ等（転倒、他人との接触等）	6	5	8%
④ テントやパイプイス等、設営物によるケガ等（準備・撤去を含む）	5	0	0%
⑤ 施設でのケガ等（階段や段差、ネット等）	19	7	11%
⑥ その他（主に体調不良、既往症、突発的な意識不明等）	14	12	19%
⑦ 往復路での事故等（駐車場内での段差や車を操作中等）	4	4	6%
⑧ 往復路での事故（往復路での転倒や交通事故等）	13	18	29%
合 計	82	63	100%

	参加中の傷害事故等			参加中の疾病等			往復路での事故等			合計
	通院	入院	死亡	通院	入院	死亡	通院	入院	死亡	
捻挫・脱臼							3			3
創傷	1	1								2
挫傷・打撲	2						3	1		6
骨折	10	14					6	8		38
心臓器系障害					1	2				3
脳疾患					4	1			1	6
熱中症										0
その他			1		4					5
小計	13	15	1	0	9	3	12	9	1	63
合計	29			12			22			

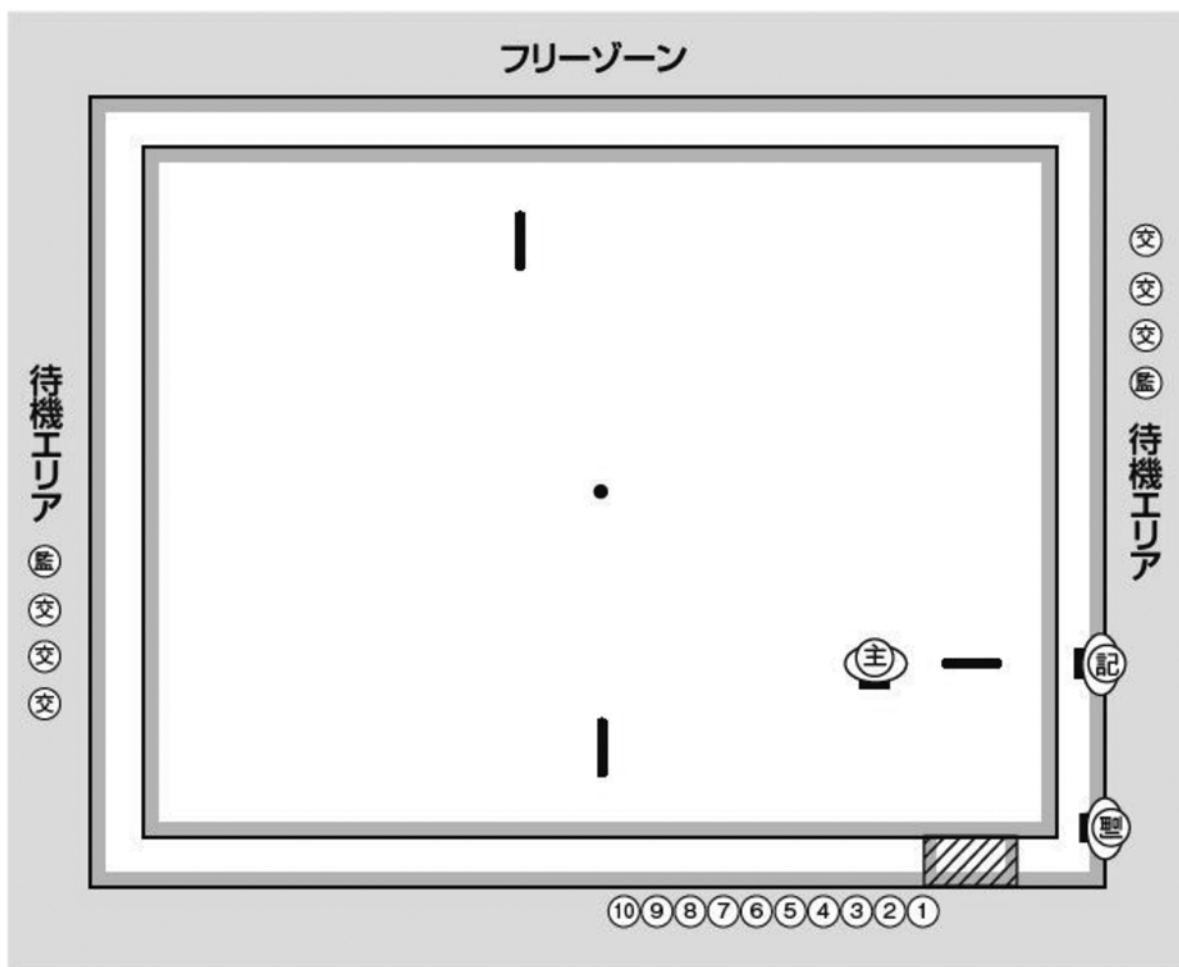
7

審判実施要領2019の主な変更点

世界連合の国際公式ゲートボール競技規則・審判実施要領の一部改正にあわせ、日本国内の同競技規則・審判実施要領の改正が2019年4月より施行。

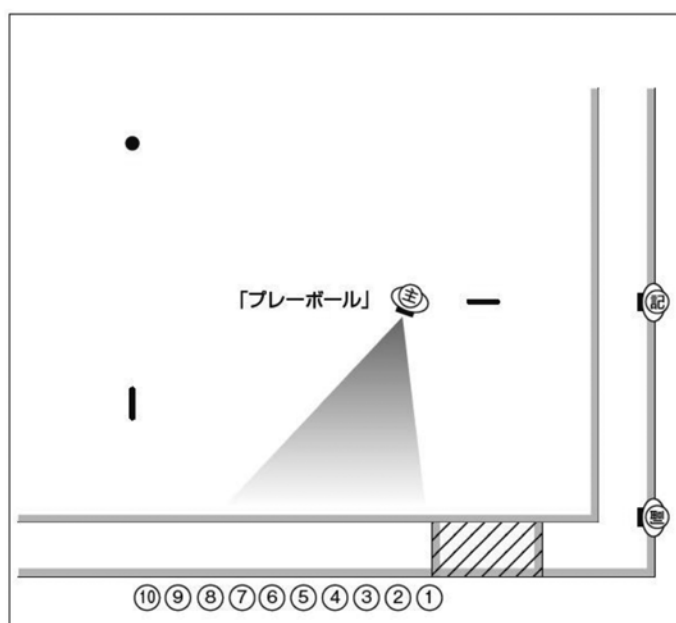
競技開始時の副審の位置（審判要領 P 47-48）

- 1) 審判員は、次の例に則り、両チームを競技開始時の位置に整列させる。
 - ① 主審が「競技開始時の位置に整列してください」と通知する。
 - ② 審判員が監督と交代競技者を待機エリアに移動させる。
 - ③ 審判員が先発競技者を第4ラインの外側のフリーゾーンに整列させる。
※ このとき、副審が打順番号とボール番号を確認する。
- 2) 主審、副審、記録員は、下図のとおり位置する。
 - ① 記録員（および線審）は、アウトゾーンに位置することを基本とする。



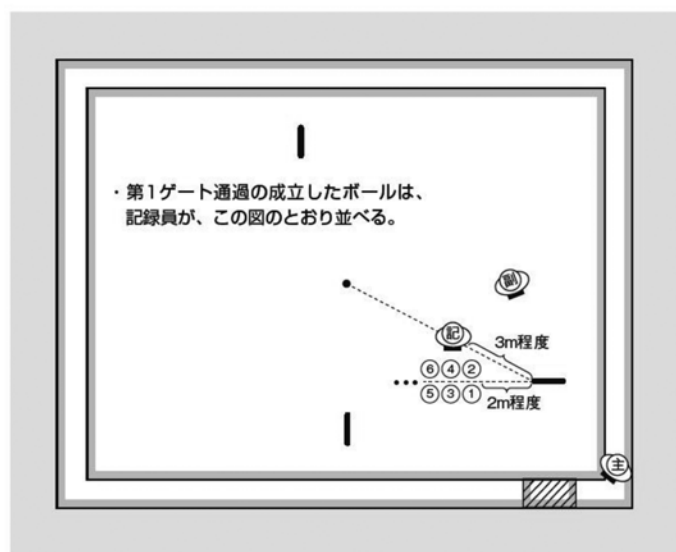
プレーボールのジェスチャーの廃止（審判要領 P 49、P 93）

- 1) 「競技開始」の合図で、主審は、5番と6番の競技者の方向に向かって、基本姿勢のまま「プレーボール」を宣告した後（下図）、1番の競技者に向きを変えて打順通告を行う。
- 2) 主審は、「1番」の打順通告後、ボールの移動を判定する位置に最短で移動し、B審判員になる。※ 審判要領 P 72 「図-17」参照。



《基本姿勢》

同点決勝時の副審の位置（審判要領 P 55）



8

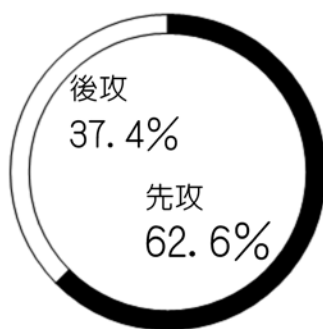
データから見る第34回全日本GB選手権大会

2018年、浦安市運動公園 陸上競技場（人工芝）で行われた、トップチームによる競技データ（全115試合）から、最新の傾向を見てみましょう。

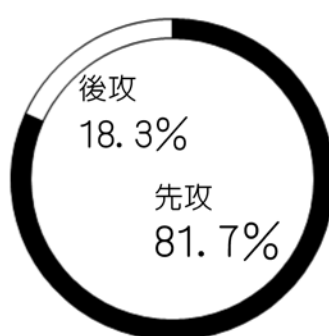
先攻・後攻、コイントス

先攻・後攻別の勝率のほか、コイントスで先攻・後攻の選択権を得たチームは、どちらを選ぶのか、また選択した先攻・後攻別の勝率をグラフで示しています。先攻を選択したチームの勝率が上昇し（32回大会の48.2%から60.6%）、後攻を選択したチームの勝率が大きく下がり（32回大会の65.5%から28.6%）、過去大会とは逆の結果となっています。

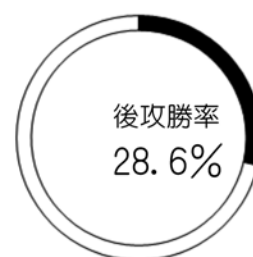
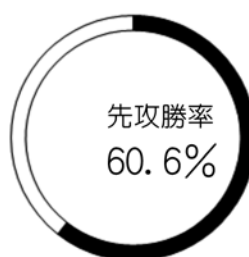
● 先攻・後攻別勝率



● コイントスの選択

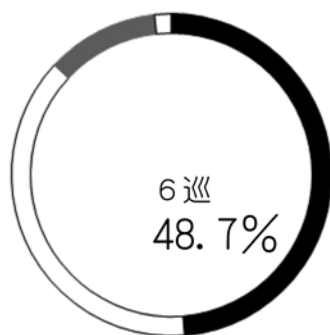


(先攻選択時の勝率) (後攻選択時の勝率)



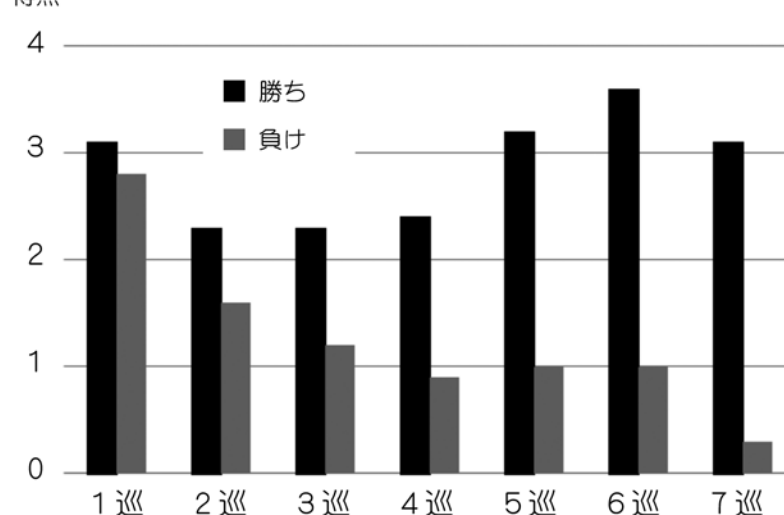
巡回数

試合の巡回数を見ると、これまで同様、約半数が6巡で終了していますが、最多となった7巡が微増となりました（32回大会：9.6%）。また、勝ちチームの平均得点では、5巡目に3.2点、6巡目に3.6点を獲得していますが、比較的、どの巡回でも平準的に得点が加算されています。



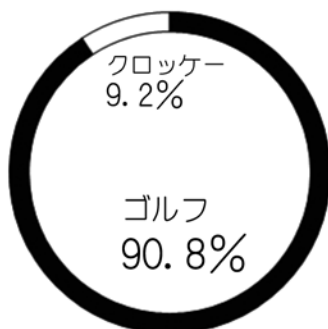
4巡	1.7%
5巡	38.3%
7巡	11.3%
8巡	0.0%

● 巡回数ごとの平均得点（勝敗別）



打撃スタイル

大きく2つに分類され、日本はゴルフスタイルが圧倒的に多く、海外ではクロッケースタイルが主流となっています。日本では、人工芝を活動場に行っている人ほど、クロッケースタイルをしている人が多いほか、スタート打撃はクロッケースタイル、それ以外はゴルフスタイルなど、状況によって使い分ける選手もいます。



ゴルフスタイル



クロッケースタイル



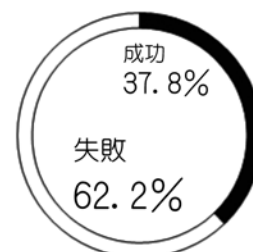
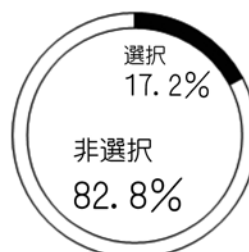
第1ゲート通過成立後の継続打撃

第1ゲート通過成立後の継続打撃では、その位置から直接、第2ゲートの通過を狙った打撃が2割を下回り、32回大会以降は、選択率・成功率ともに、微減の傾向となっています（第32回大会：選択率 21.6%、成功率 42.7%）。天然芝、土、人工芝などのコートコンディションにもよりますが、より確実な打撃・作戦を選択する傾向が見られます。

● そのまま2G通過の詳細

(選択率)

(成功率)



反則

第34回大会は、反則として処置した件数が、データ収集してから過去最多となる43件で、一試合平均0.37回となっています。

人工芝の影響もあり、ボールが若干すべりやすくなったため、スパーク打撃違反の件数が突出しており、前回大会より5倍近く増加する結果となりました。

	第34回	第33回	第32回
	人工芝	土	天然芝
打撃違反		1	
二度タッチ	11	5	11
スパーク打撃違反	24	5	3
アウトボール打撃違反	5	7	7
触球違反		1	2
タイムオーバー	3		1
合計	43	19	24

審判員制服のご案内

次に紹介する「日本ゲートボール連合 認定審判員制服」の購入については、47都道府県の加盟団体にお問い合わせください。

<冬用長袖ポロシャツ>

(男女共通モデル)



男女兼用の紺と白の大胆なレフリーストライプの長袖ポロです。三つボタンのかぶり式でレフリーワッペンを固定できる仕様になっています。

XXS~XXLまでの7サイズ展開
通常の吸汗速乾機能と耐洗濯性を2倍にした機能を持つ
高耐久吸汗速乾機能素材
(ポリエステル100%)

価格:4,980円(税込)

<夏用長袖ポロシャツ>

(男女共通モデル)



男女兼用の紺と白の大胆なレフリーストライプの長袖ポロです。三つボタンのかぶり式でレフリーワッペンを固定できる仕様になっています。

XXS~XXLまでの7サイズ展開
通気性の高い生地で発汗時のべとつきを抑制する吸汗速乾機能素材
(ポリエステル100%)

価格:4,980円(税込)

<男子ニットスラックス(通年)>

(男子専用モデル)

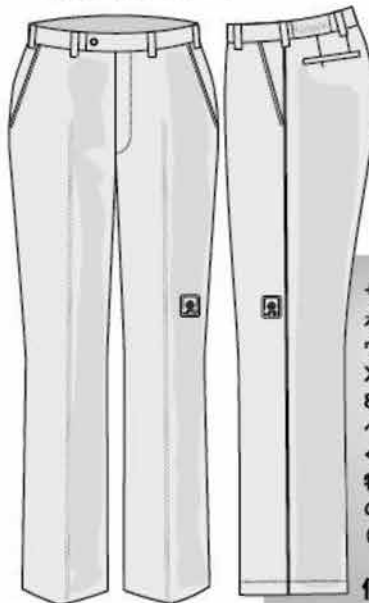


サイドにラインが入ったスポーティーなモデルです。
ウエスト脇ゴム仕様
XS~4XLまでの
8サイズ展開
べとつきにくい・体が冷えにくい・サラッとした着心地が特徴のオールシーズン対応の快適吸汗速乾機能素材
(ポリエステル100%)

価格:5,500円(税込)

<女子ニットスラックス(通年)>

(女子専用モデル)



サイドにラインが入ったスポーティーなモデルです。
ウエスト脇ゴム仕様
XS~4XLまでの
8サイズ展開
べとつきにくい・体が冷えにくい・サラッとした着心地が特徴のオールシーズン対応の快適吸汗速乾機能素材
(ポリエステル100%)

価格:5,500円(税込)

<夏用半袖ポロシャツ>

(男女共通モデル)



男女兼用の紺と白の大胆なレフリーストライプの半袖ポロです。三つボタンのかぶり式でレフリーワッペンを固定できる仕様になっています。
XXS~XXLまでの7サイズ展開
通気性の高い生地で発汗時のべとつきを抑制する吸汗速乾機能素材(ポリエステル100%)

価格:4,700円(税込)

<レフリーキャップ(通年)>

(男女共通)



男女共用のメジャーリーグタイプのツバに白いラインが入った六方型のベースボールキャップです。6方のうち正面の2方が紺色でレフリーの刺繍が入り、後ろはストラップでサイズ調整が可能です。フリーサイズになります。
通気性の良好な二重編み構造のラッセルメッシュ使用(ポリエステル100%)
価格:2,800円(税込)

<ウインドブレーカー:上>

(男女共通モデル)

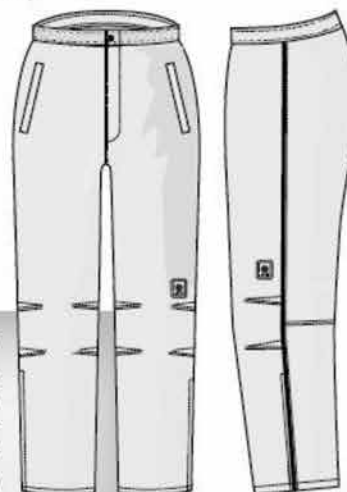


男女兼用の格納式フードが付いた前ファスナー式のハーフコートです。防風、防寒性の他、小雨などにも対応できる便利なものです。
XS~XXLまでの6サイズ展開
軽くてソフトな風合いが特徴の耐久撥水透湿防水機能素材(ポリエステル100%)

価格:7,200円(税込)

<ウインドブレーカー:下(通年)>

(男女共通モデル)



下に履いているパンツのポケットに手が入るような仕様の貫通ポケットが付いたウエストゴム仕様のオーバーパンツです。上着同様の機能があります。
XS~XXLまでの6サイズ展開。
軽くてソフトな風合いが特徴の耐久撥水透湿防水機能素材(ポリエステル100%)

価格:5,500円(税込)

記録表の記入方法 (例)

記録表は、単なる競技の結果だけでなく、競技がどのように進行されたかが分かる公式の記録です。記録表の記入方法について、今一度、確認をしましょう。

記録表 / SCORE SHEET

競技名 Competition Name		第45回 全日本ゲートボール選手権大会		コート番号 Court No.	07	開始時刻 Start	13:10
会場名 Venue		県立総合運動場		年月日 Date	2029年9月18日		試合(打順) Match No.
						終了時刻 End	13:42

先攻チーム / Leading Team		巡回数 / Round															後攻チーム / Following Team	
トス Toss	スパークス																トス Toss	ファイターズ
選手番号 No.	競技者名 PLAYERS NAME	1G	2G	3G	上がり GP	得点 Points	1G	2G	3G	上がり GP	得点 Points						選手番号 No.	競技者名 PLAYERS NAME
①	山内敏夫	1	✓	✓	✓	5	2	✓	✓							2	小島修一	
3	林周一	3	✓	✓		2	4	✓	✓							4	尾崎三郎	
5	太田寿一	5	✓	✓	✓	3	6	✓	✓	✓	✓					6	松島みよ子	
7	清水道子	7				0	8	✓	✓	✓						8	渡辺育雄	
9	山本幸治	9	✓	✓		2	10									10	田村芳子	
交代 7-1	杉山あき子	主将サイン / Cap.Sign					総得点 / TEAM POINTS	主将サイン / Cap.Sign					総得点 / TEAM POINTS	交代 8-2	高橋英雄			
交代 8-1	山内敏夫						12	高橋英雄					12	交代 8-1	浅井秋子			
交代 8-2														交代 8-2	後藤好美			
交代 8-3														交代 8-3	石谷幸三郎			
監督 Manager	河野知男	同点決勝 / Tiebreaker					決定打順 / Set-No.						監督 Manager					
		2					7	2					巡回	6	番			

主審 / Chief Referee	副審 / Assistant Referee	記録員 / Recorder	特記 / Remarks
藤井実	田中哲雄	中野隆志	線審 大川紀子

トスが終了した後、先攻・後攻の選択権を得たチームが選択した方に「✓」を記入する。

交代の申し出があったとき、交代する競技者を確認し、「打順 - その打順の何番目の交代か」を記入する。

「1番」の打順通告があるときに「✓」で消していく。

線審がいる場合は、特記に記入する。

主将を確認し、打順に「○」をつける

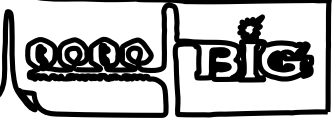
主審が交代の宣告をしたときに、仕切り線を記入する。

特に注意すべき記入方法

- 1) 【競技開始前】 トス
 - ① トスにより先攻・後攻の選択権を得たチームに対し、トス欄に「✓」を記入する。
- 2) 【競技開始前】 オーダー表の記載内容
 - ① 主将の打順番号（主将が交代者の場合は、交代者の項目）を「○」でかこむ。
- 3) 【競技開始時】 競技開始の時刻を記入する。
- 4) 【競技中】 巡回数（1番の打順通告が行われるごとに、「✓」で巡回数を消していく。）
- 5) 【競技中】 ゲート線にかかわる記入（競技規則・審判実施要領P90「図-30」参照）
- 6) 【競技中】 競技者の交代
 - ① 交代の申し出があったとき、交代する競技者を確認し、該当する交代競技者の項目に、打順と、その打順の何番目の交代かを「*（打順） - *（何番目か）」を記入する。
 - ② 主審が交代を宣告したとき、得点チェック欄の該当する枠内に、仕切り線を記入する。
- 7) 【競技終了時】 競技終了の時刻を記入する。
- 8) 【競技終了後】 打順ごとの得点とチームの得点を記入する。
 - ① 主審は、記録内容を確認し、勝ったチームの総得点を「○」でかこむ。

ゲートボールテキスト 2019

発行日 2019年6月28日
発行者 公益財団法人日本ゲートボール連合
東京都港区虎ノ門三丁目4-10
電話：03（5401）2251
<http://www.gateball.or.jp/>
印刷 エーアンドエー株式会社
不許複製 公益財団法人日本ゲートボール連合の許可なく複製・転載
はできません。



つなげていきます スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

